

## はじめに - 創立 35 年を経て

創立当初を振り返ると、アジア各国において進展の差はあれ、行政による保健医療システムの整備、サービスの改善が見られ、その上で NGO の役割を論じることが必要となった。またインターネットの普及や交通手段の発達に伴い、国を超えた経験交流を促進する要因が整ってきた。実質的にアジア地域でのネットワーク形成が可能となった現在、これまでの各国の研修生とのつながりを基に、一層これに力を注ぐ。

アジア諸国の変化、および日本国内の社会情勢の変化により、両者に共通した地域の諸課題も増えてきたと言える。創立期から掲げてきた「アジアに胸を借りて学ぶ」もまた、実質的な意味を持つようになった。地域の課題に取り組む当事者同士をつなぎ、学び合う場を作り出すコーディネーターとしての役割は潜在的に大きくなっており、この面でも様々な可能性を掘り起こしていきたい。

活動に関しては国内外に新しい局面に入ったと言えるが、反面、それらを進めるための財政は年ごとに厳しさを増している。継続的に支援を期待する賛助会員の著しい減少のため、財政基盤の縮小が甚だしい。既にある個人・法人とのつながりを基に、他の広がりを生み出す地道な取り組みが火急の課題として対応する。

## A. 研修事業

### 1. 国際研修

世界規模で急激に進む市場経済の中、各国において貧富の格差が広がっている。他方、地方分権が進み、NGO や住民組織が関与する機会も広がっている。公的医療保健サービスへのアクセスを高め、住民自身の自助努力とあわせて、「人びとの手に健康を」を実現するためには、NGO にはどのような

役割が求められるかが当研修の基本的な課題である。参加者が経験交流を通して、現在の自身の活動を振り返ることを目的とした参加型研修を行う。

\*テーマ：健康な地域づくりのための地方自治における住民参加の推進

\*内容

各研修生の活動事例の発表およびそれに基づく討論を行う。また国内各地を訪問し、そこでの実践から学ぶ。研修終盤には帰国後の活動計画を作成する。

\*期間 2016 年 9 月 4 日～10 月 10 日

\*場所 AHI および日進市近郊および広島

\*対象・参加者

アジア 7～8 ヶ国から 12～13 名

保健・開発分野の地域活動に従事する NGO 職員（及び住民組織のリーダー）

## 2. 研修生へのフォローアップ事業

### 1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体を対象に、英文のニュースレターを発行し、アジア各地および日本での保健・地域開発活動の情報を提供する。毎号テーマを設定し、元研修生や関連団体から原稿を募り、活動経験や意見を共有する場とする。2016 年 6 月及び 12 月各 1,000 部発行予定。

### 2) リユニオンセミナー（国別研修生会合）の開催

当該国の元研修生間の情報交換を促すと同時に、新たな学習、ネットワークの機会として、国別に開催する。開催は元研修生からの自発的な発案によるものとし、企画立案・準備も元研修生有志による体制を基本とする。

2016 年度は、下記 2 ヶ国で開催する。その他の国についても、開催に向けて適宜元研修生と交信

を行う。

①インド＜2016年2月に予定していたが、現地の情勢のため延期とした＞

日時：2016年4月

場所：インド南部タミル・ナド州

②ネパール＜2016年2月に予定していたが、現地の情勢のため延期とした＞

日時：2016年7月

場所：カトマンズ近郊（予定）

### 3) その他のフォローアップ

#### ■AHI との関係強化、研修生間のネットワーク形成のために

研修後もAHIや他の研修生との関係が継続するよう、働きかけや環境整備を行う。

\*誕生日に職員が寄せ書きしたカード、年末にはグリーティングカードを送付する。

\*ホームページ上の「活動便覧」（元研修生が他の元研修生の活動を活動領域や国別などで検索できる機能）の周知と活用の促進。

#### ■国際ワークショップ準備

元研修生の活動実践を基にテーマを設定、活動地域への訪問と当事者への聞き取りを主な内容とし、各国からNGOと住民組織のリーダーや地方行政職員を1組として参加を募るのが国際ワークショップである。

前回は2015年3月にフィリピンでおこなった。2017年度以降の開催に向け、インドネシアをはじめ、元研修生と交信を重ね、準備する。

### 3. 地域保健推進のための協働事業

元研修生による特定地域での開発活動に協力する。

#### ①茶農園地域の教育環境改善への支援

元研修生の所属団体 HDO (Human Development

#### Organization) 及び Satyodaya との協働 (スリランカ)

スリランカの茶農園で働くインドタミル（インドからの移住民）の人たちは、社会的に低い地位に置かれてきた。この地域で彼らの生活改善に取り組む元研修生が、それぞれの活動地域にある公立学校に協力して、初等教育を終える子どもたちが受ける全国統一試験のための補修クラスの開催を支援する。

このことを通じて、子どもの保護者および他の地域住民の、教育の重要性や地元の学校に協力する意識を向上させる。

#### ②ヘルシーライフスタイル推進

元研修生有志 ANAK-NC との協働

(フィリピン)

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、元研修生の団体 ANAK-NC による健康増進のための活動を支援する。2016年度から事業実施地域が4村増え、計8村となる。そのため先行する4村の活動の自主性、自立性を高めることに注力し、一方 ANAK-NC の運営能力向上にも努める。

またこれまで関与がなかった州やリージョンの保健局にも働きかけ、上位の行政機関との連携や、関心と同じくする他のグループとのネットワークの形成を図っていく。

#### ③保健ボランティア育成と代替医療の推進

元研修生の所属団体 INAM との協働

(フィリピン)

INAM がルソン島中部のリサール州タナイ町及びケソン州ジェネラルナカール町で進める保健ボランティアの育成と行政との連携推進に協力する。

タナイでは、先住民の保健ボランティアを中心とした住民組織の組織力向上に努め、医療費相互扶助の仕組みを浸透させる。さらに保健ボランティアが町の保健委員会など行政において認知を得て、住民の声を届ける役割を果たすことをめざす。

ジェネラルナカールにおいても、保健ボランティアの育成と事業運営のための研修を、町行政と協働で実施する。

#### ④地域住民の社会心理的課題に対する意識向上とメンタルヘルス推進

##### 元研修生所属団体 Kopila Nepal との協働 (ネパール)

内戦終結後、開発が進み貧富の差が拡大する中、トラウマや鬱などメンタルヘルスの問題が浮上している。地方では特に行政の対応が遅れ、関連情報も少なく、偏見や差別も強い。適切な支援が受けられず症状を悪化させる人も多い。

協働団体は、問題を抱える当事者、リスクの高い人たちおよび彼らの家族による自助グループとその連合体を強化し、自律的な運営に向け能力の向上に努めている。西部のポカラ周辺の2郡16村において、自助グループのメンバー対象に草の根カウンセラーの育成を図ると同時に、行政職員や教師等への研修を行っており、今年度もこれを継続する。3年目となる2016年度は、連合体の自立に向けたリーダーシップ育成に重点を置き、また協働団体と共に中間評価を行う。

#### ⑤小規模 NGO の若手スタッフ育成

##### 元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS Awareness Society (AAS) との協働 (パキスタン)

本事業は、2013年度国際研修の参加者が、帰国後計画として立案した研修会であるが、今年度で3回目を迎える。NGO活動を担う次世代の人材育成のため、AHIで経験した参加型研修の理念や手法を基に、健康と平和づくりをテーマにした研修の実施を支援する。

参加者の所属団体と密な関係を築き、研修後のフォローアップやこれまでの参加団体間のネットワーク形成に一層努める。

研修開催期間：2016年4月

場所：パキスタン北部ラホール市内

対象：現地のNGOの若手スタッフ 約20名

## B. 国内活動

### 1. アジア理解のためのプログラム

#### 1) オープンハウス

気軽に参加できる場として、また年に一度の恒例行事として、「楽しくアジアとAHIに触れるお祭り」オープンハウスを開催する。

5-6月に実行委員会を組織し、当日に向けて準備を進める。その中で実行委員のAHIへの理解や関連分野への関心も高める。新しい来場者を得るために、積極的に幅広い広報に努める。

開催日：2016年10月10日（祝・月）

#### 2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、AHI紹介の講座を毎月1回、第四土曜日に開催する。その後のボランティア活動やプログラムへの参加につながるよう、同講座において参加者同士の交流に努め、また他のプログラムとの連携を図る。

#### 3) AHI 講座

職員のほか、支援者・ボランティアの人たちが持つ様々な経験をとらえて、彼らの協力を得て講演会を適宜、開催する。年間2~3回程度。

アジア各国の情報、人々の暮らしや文化、地域開発のアプローチなど幅広くテーマを設定し、多様な関心に応じられるようにする。

#### 4) アジアのNGOワーカーと語る集い

会員、地域の市民、ボランティアを対象に、国際研修の研修生をリソースパーソンとして行う。

アジア各国の状況、NGO や住民組織による取り組みを聞き、同時に日本の状況や課題に照らして考える。2016年9月下旬実施予定。

## 5) スタディツアー

元研修生及び所属団体の協力を得て彼らの活動地域である農村部を訪問する。ホームステイなど生活体験を持つと同時に、住民による開発活動を視察する。定員は20名程度、高校生以上を対象とする。2017年3月下旬実施予定。

## 2. 情報および体験機会の提供

### 1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の状況、地域の課題、NGO や住民による取り組みを伝える。具体的な情報を提供し、読者が身近に感じられるものを目指す。またボランティア紹介によって、支援者間の交流の場という性格も高める。年に5回、各回約4,000部発行。うち1号は、簡便な形(A4サイズ両面)とし、手軽に読まれるものをねらう。

### 2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども(主対象:小学校高学年以上)向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝える。年に2回、各6,000部発行。

### 3) ホームページ運営

ホームページをはじめ、広報におけるインターネットの比重が格段に大きくなっている。アジアの元研修生や国内の関係者がネット上で自由にやりとりする状況もある。AHIからの発信・情報提供としてのホームページの充実、及び関係者間の交流の場としてフェイスブックの活性化に努める。

## 4) ボランティア/インターン受入れ

学生や社会人を対象にNGOの活動の現場を体験する機会を提供する。さらに、多様な人たちの関与を促し、異なる背景や世代の人たちが交流し、学び合う場を作る。

## 3. 他団体との協力

### 1) 他団体への講師派遣

要請に応じて、職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝える。

従来日進市内を中心に行ってきた「小学校への出前講座 体感アジア!」は、引き続き市内外からの依頼に応じ実施する。

### 2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進める。〈 〉内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋NGOセンター〈理事〉
- ・名古屋キリスト教協議会〈書記〉
- ・障害分野NGO連絡会〈幹事〉
- ・日比NGOネットワーク
- ・日本キリスト教協議会
- ・カンボジア市民フォーラム〈世話人〉
- ・開発教育協会
- ・あじさい会(日進市内の事業所交流会)
- ・ゆるやかネットワーク(日進市市民団体協議会)  
〈理事〉
- ・パートナーシップサポートセンター

この他、日進市及び近隣地域での市民グループ「にっしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの”いのち・くらし・エネルギー”を考える会」の活動に加わっている。また、職員が次の役職を務める。

- ・社会福祉法人さふらん会〈評議員〉
- ・名古屋YWCA〈評議員〉

### 3) 他団体との協力による政策提言活動

加盟団体の一員として、関連分野において関係機関等への政策提言活動を行う。

#### a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、また政策提言委員会のメンバーとして、国際協力機構 (JICA) や外務省などへの政策提言活動に関わる。

#### b) カンボジア市民フォーラム

同フォーラムに加盟し、カンボジアの開発、保健政策への提言、また援助国・国際援助機関に対する提言活動に関わる。

## C. 法人運営

### 1. 理事会・評議員会

組織のガバナンスの機関としての評議員会、事業執行をおこなう理事会、それぞれの機能を一層充実させる。財政縮小への対応、およびバリアフリー化を含む会館の補修・改修は二大課題であり、至急取り組む体制を作る。

### 2. 賛助会員募集・募金活動

公益事業の遂行のための経年の経費をまかなうために、賛助会員募集および募金活動資金を行う。

#### ●「ひとつかみサポーター」(月定額自動引落による支援) 呼びかけの強化

初めての接点の際、丁寧にコミュニケーションをはかり、その後情報提供を行う。関係を継続し、財政支援につなげるよう、働きかける。国内諸プログラムにおいて新しい「切り口」を探し新規の人との接点を拡大する。

#### ●継続率向上

2015年度の年会費納入率(実績見込み)は、約7割である。退会者の半数以上を占める自動退会

(3年間納入がない場合)を抑えるために、自動引落など利便性の高い方法を周知する。

#### ●新規の法人・キリスト教会への働きかけ

既存の支援者とのつながりから新規の可能性を発掘する。法人会費による支援だけでなく、先方の状況に応じて幅広く支援メニューを提示する。

#### ●賛助会員の高齢化に伴うニーズへの対応

支援者の高齢化に伴いニーズが高まった「遺贈」に関連して、「想いを伝える遺言書の書き方講座」を年に2回程度実施する。

#### ■ 会費収入目標 計 15,400,000 円

2015年度実績見込を基に目標を設定。

##### a) 新規会費 目標 150,000 円

平均年会費額 5,000 円

×新規会員目標数 30名

##### b) 継続会費 目標 12,650,000 円

平均年会費額 (2015年度実績見込は¥6,449) 6,500 円

×納入依頼者数 (2016年度当初見込)

2,458名

×納入率 79% (2015年度実績見込は 73%)

=12,621,830 円

\*納入率を 2015年度実績見込よりも相当高い目標を掲げている。

##### c) ひとつかみサポーター 目標 2,600,000 円

継続 (見込) 2,352,000 円

2016年度の新規 (目標) 240,000 円

(月額 1,000 円×40名×6ヶ月)

計 2,592,000 円

#### ■ 寄付収入目標 計 33,000,000 円

##### a) クリスマス・お正月募金

目標額: 20,000,000 円

(2015年度実績見込 15,050,000 円)

期間: 2016年12月1日~2017年2月28日

##### b) 一般寄付

目標額: 13,000,000 円